

2. 性犯罪の被害者

話を聞くことができたのは17件であった。通話時間は最長で70分、最短で1分、平均16分であった。

被害者は全員女性である。未成年で保護者と同居の場合は、最初に保護者に了解を得ることにした。その結果、本人でなく母親からの聞き取りとなったのもあった。

また、話をするのは「もう少し後にしてほしい」と言うので、いつ頃なら可能かと尋ねると「半年ぐらいしてから」ということで、触れられたくないという思いが強く感じられた。

1) 事件の衝撃と、心理的反応

① 被害内容に関して

被害は、強姦、性行為の強要、電車や駅構内や路上での痴漢や猥褻行為等で、金品を奪う被害を伴うものもあった。

比較的多かったのが電車内での痴漢行為であるが、「体を触られた」「下着に手を入れられた」「陰部を触られた」「指を入れられた」「下着をずり降ろしてさわってきた」など被害度が高いものが目立つ。

屋外や半屋外での被害として「エレベーターの中」「自宅付近」があり、また「自宅マンションの踊り場」「空き家裏」「ビル」などに連れ込まれて、ナイフや暴力行為や言葉で脅迫しながらの性行為を強要されたという被害があった。被害内容としては「さわられた」「猥褻行為」「強姦」である。モデルにならないかなどと誘うケースもあった。

「嘘をついて生理中なのでやめた方がいいと言った」「カギをかけ忘れて部屋に寝ているところに侵入された。大声を出したら、逃げ出した」と、防衛が効を奏したケースもあった。

② 事件の衝撃と心理

事件後、精神的に様々な影響が生じたことが具体的にあげられた。

◇当時は夜になると(事件を思い出して)泣いてしまうことがあった。食欲もなくなり、貧血気味にもなったが今は食欲は戻っている。

◇イライラ、やけ食いした。睡眠は大丈夫。考えないようにした。

◇会社は一週間休んだ。体に発疹したので不安になって診察を受けたが、ストレス性のものと言われる。

◇直後は夢をいっぱい見た。男の人に襲われた。自分にとって怖い夢。

◇思い出しては、自殺したいと思った。

◇私の場合は、ショックより腹が立った。

◇まさか自分が、との思いで自分も家族も動揺した。

不安も大きい

- ◇事件後、電車に乗るのがいや。混んでいるのを避けるため、時間を早くしたりして、座って行ったりいる。電車に乗ると必ず思い出す。似たような顔をした人を見ると敏感になる。近所に住んでいる人だから、また遭ったらどうしよう（嫌だな、怖いな）と思う。
- ◇警察が痴漢に襲われたら、声を出せと言うが、そんなこと言われても出しづらい。ついてきたらどうしようと思う。

自分に落ち度があるのではないかと責める気持も持つ

- ◇始めの頃はきっかけについて自分を責めた。
- ◇自分を責めていた。

大丈夫と答えた人もいる

- ◇私の中では消化している。若い子ならもっと大変だったのかも知れないけれど、自分は、男の人がどういうものか知っているし大丈夫。
- ◇用心深くなったのは、良いことだと思う。

③ 周囲の対応について感じたこと

周囲からの理解が得られ、援助された人も多い。

- ◇友人二人に話したら、暖かく聞いてくれた。
- ◇警察で事情聴取の時、法学部の教授がついていってくれた。
- ◇あなたが悪いんじゃない、と伝えてくれた。
- ◇友人に話聞いてもらって、「戸締まりしなよ」とか当たり前のことでも言ってもらえて良かった。
- ◇周りに友達がいて支えられた。友達は「これから前向きにいかなくては」と、先輩には「のりきっていかないと。ずっと誰かについてもらわなければならないから、一人でできるようにならないと」とアドバイスされた。父親からも「ハードルがあって乗り越えていく、生きていくことはつらいことが多いけど、後でよかったということになる」と言われた
- ◇事件のあと怖くて家に帰れなくて友達の所にいた。昼間、服を取りに行くくらいがやっとだった。親に話したら、次の日来て、ホテルと一緒に泊まった。両親が交代で来てくれ、その後、引っ越した。父は冷静によく聞いてくれた。母の方が動揺していた。
- ◇親身になってくれる友人も現れた。本当の友人が見つかったように思う。一番うれしかったのは、「話したかったらいつでも話してね。話したくなかったら別に聞きたくない

から」と言ってくれたり、他の人がいろいろ言っているのを「もうやめなよ」と止めてくれたりしたこと。

◇事件の話をしたら「つかまえたら、ぶっとばしてやる」という人もいた。そういう人もいと、信用してもいいかなと思った。

一方、事件のことを友人や家族に話していなかったり、話した結果、責められた人もいる。

◇詳しいことは友人にも話していない。

◇母親と親友には話したけれど父親には言っていない。

◇両親に知られたらどうしよう。妹には話したが、私を責めた。

◇声を掛けられてついていってしまったので、母、友人に隙があるから自分も悪いと言われ、自分もそう思っている。

善意からの言葉だとしても、受け容れられないことがある。

◇友人に親切なんだろうけど「法学部だからいい経験じゃない」と言われた。

◇彼が「誘ったんじゃないのか。思わせぶりしたんじゃないのか」と言った。何で慰めてくれないのかと思った。「男として許せなかった」と言っていたから実は心配してくれたのかなと思うけど。

2) 医療現場での対応について

①検査について

◇性病とか妊娠などきちんと説明をしてもらえなかった

◇警察へ提出する（精液など）検査、感染症の検査（エイズや性病など4、5種類）などが自費でかかり、保険も効かない。精神的ショックにさらに金銭面でも負担となる。検査は1か月、3か月、半年、1年とかかり、そのたびに2、3万円かかる

◇検査に保険をきかせてもらった。エイズ検査には、保健所を利用。経済的には、何とかだったが、たびたびの休みを会社に理由を言えず困った

というように説明不足だったことと、金銭的、社会的な負担があることが述べられた。

②医療スタッフについては、

「医師が男だったのが嫌だった」「先生が若い男性であったので嫌だった」

というように、医師が男性であることの負担が述べられた一方、

「先生はとても優しくしてくれたが、看護婦さんが冷たかった」り、「親切に説明してく

れた」場合もあった。

診察については

- ◇台に足をのせるとき、事件のことを思い出して嫌だった
- ◇きちんと傷を診てくれたか不安が残った
- ◇医師は意識の消失を薬物によるものと考えたが、その検査は採血のみで、しかも緊急入院してから12時間たってからだった。救急患者に対してのケアだろうか。

というように、診察自体が負担であること、診察についての不信も感じた被害者もいた。

3) 警察の対応について

① 初期対応

よかったものとして；

安心感を得た

- ◇頼れる感じ。
- ◇安心できた。
- ◇挨拶をしてくれてだいじょうぶと言ってくれたので安心した。
- ◇大勢の警察官の方々がすぐ来てくれたのでとにかく安心した。

親切で優しい対応

- ◇事務的ではなく親身になってくれた。
- ◇丁寧に対応してくれた。
- ◇やさしかった。
- ◇とっても親切だった。やさしくてよかった。
- ◇親身になって聞いてくれた。
- ◇あまり大きな事件ではないのに、とても親切にやさしかった。

きちんとした対応

- ◇話をちゃんと聞いてくれた
- ◇いそいで無理に聞きだそうとせずに、とても気を使ってくれた
- ◇動揺していたので、私の名前を呼びながら話を聞いてくれた
- ◇熱心に話を聞いてくれ、私をうけ入れてくれた
- ◇精神的に参っていた私を助けてくれ事件のことを細かく聞いてくれた

同性（女性）が担当者だった

- ◇女性警官が来てくれた

◇気さくな女刑事さんで友だち感覚で話せた

対応がよくなかったとするものは；

◇交番に先客がいて、20分以上待たされた。待っている間に「結婚してるのか」「なんで一人暮らしをしているのか」など聞かれたけれど、事情聴取の時に聞けばいいと思う。待っている間は放っておいて欲しい。制服の警官が数人いて見られていやだった。

◇警察の対応は110番して来るまで10分位かかった。もっと早く来てほしかった。

◇派出所から警察に行ったが、犯人と同じ車で行った

◇警察では病院に行かせてくれなかった。(最初、けがは大したことは無いと思っていたので「大丈夫です」と言っていたから)

② 事情聴取

事情聴取についての不満は多い。

何度も繰り返して聞く

◇何度も同じことを聞く

◇何度も話すと思い出してムカつく

◇5、6人に同じように一通り話した

◇何度も同じことを聞くのは仕方ないと思いつつも気持的には複雑

時間がかかる

◇長時間かかる

◇調書にサインするのに何時間もかかる。帰りが夜中過ぎになった

◇7時間もかかり、証人の方にも大変迷惑をかけた

◇細かく書くのはしかたがないが、時間が掛かりすぎている。疲れた

◇手書きの供述書が時間がかかりすぎる

◇書類作成時の段どりが悪い。15分で終わることに1時間30分もかかるとイライラする

◇夜11時前から、取り調べが明け方まで長時間にわたった

場所や対応についての配慮が無い

◇いろんな人が、入ってきて嫌だ

◇もっと人に聞こえない様な場所にしてほしい

◇警察署は威圧的。大勢の警察官に見られるのも嫌だった。取調室に行くのも嫌だった。

近くの喫茶店に来てもらった。

男の人には話づらい

- ◇男性にセックスに関する質問をされて、それに答えるのは抵抗がある。
- ◇女性警察官がついてくれたが、検分の時、男性警察官に取り囲まれて可哀想だった。(母親)
- ◇男性の警察官は自分を一人の人間としてみてくれていない。仕事として見ている。婦人警察官の方が親身になってくれる。

その他

- ◇再現をさせられるのが嫌だった。
- ◇親の前で聞かないで欲しい。親が可哀想なのであまり話せない。

- ◇気のない返事なので重要でないと思って何度も言わなかった所が、後で重要な証拠になっていたことがわかった。ちゃんと聞いてほしい
- ◇警察で「エイズが心配」と言ったら、警察の人が「ああ、献血すればわかるでしょう」と言った。赤十字の人に対して失礼だし、非常識だと思う。自分は保健所に行こうと思っている

対応が良かったとするものとしては、

- ◇女性だったこと。緊張をほぐしてくれた
- ◇女性の警察官でよかった。
- ◇個別に相談に行った時、女性が相談にのってくれた。
- ◇個人差があるけれど、とりあえず女性の方がいい。どちらがいいかは聞かれずに、女性だった。
- ◇このように、女性が対応してくれたことについての評価があるが、一方で男性の警察官に励まされたり、性別には関係なく、よい対応を受けた被害者もいる。
- ◇調書をとってくれた刑事さんはとてもいい方だった
- ◇いろいろ配慮してもらった
- ◇心細い時、刑事さんがいて、話を聞いてもらって軽くなった。助かった。
仕事なので(警察官も)いろいろ何があったかは聞かぬが、いやな感じではなかった。
- ◇男性の警察官に、「僕が捕まえるから」と励まされた

4) 裁判について

性犯罪の場合、被害後に告訴や裁判をどうするかという問題が生じてくる。

◇事件のことよりその後の裁判のことで、ごたごたしている。

裁判にするかどうかについて被害者自身が決めなくてはならないが、どうすればいいかわからず、困惑してしまう被害者が多い。

◇警察、検事、弁護士が、裁判までの過程で言うことや反応や見解が違って困った。それぞれの話をきいて自分で判断を下す時とても勇気がいった

◇告訴をどうするか、と考えていた時が一番つらかった。一週間から10日くらい。一晩中、泣いたりしていた。

◇告訴をするかどうかを決める時、どうしていいかわからないから、警察から、アドバイスがあればよかった。

◇告訴をしたら、仕事も休まなければならない。事件のことも思い出さだろう

◇そういうことでもらうお金は汚い気がするし、許せないのも、自分としても裁判した方がいいのかなと思うが、面倒くさい。周りからは、どうしたの？と聞かれるし、それも嫌。

事件のことを公にしないようにという周囲の思いや、加害者側の弁護士の態度も大きな影響がある。

◇周りの家族や友人みんなが「知られることはない」と伏せようとする。がんばれと言ってくれたのは一人。

◇自分は裁判にしたいと思ったけれど。相手の弁護士は、加害者は家族に小さい子もいると言いき、裁判をしたいという私が悪いように言われた。その場ではそうだな、と思ったけれど家に帰ってきてから変だと思った。言いくるめられたような気持ち。

◇相手の弁護士と会った。こちらから出向いていった。弁護士から「相手の（同居している高齢者の）両親のことを考えて」と言われた。弁護士のやり方だろうと思うけれど。加害者は会社にも、両親にも知られていない。

◇弁護士とは示談の話し合い1ヶ月以上かかった。8回位。警察に相談に行ったら、示談に応じなくてもいい、起訴もできると言われた。裁判になると公の場で証言することになる、とも言われた。

裁判にすることにした人は、公の場で加害者が償うことを求めている。

◇加害者はやったことは認めても、そこまではやっていないなどと言っている。弁護士を付けて示談を求めてくる。私は金をもらって得するかも知れないが、前からしていた人らしいので、今までやられた他の人のために裁判しますと言った。

◇犯人が裁判の2日前まで否認を続けていて。突然2日前になり会社の弁護士を立てて示談を申し入れてきた。金額はあまりにも少なく、反省していない感じなのと、金を受け取ってもどうしようもないこともあり、また、一番大切なことは本人自身が告訴を望んでいるために受諾しなかった（母親）。

5) 加害者に対する気持

相手が「居直ってくっつかかって来たので、非常に怖かった」「本人は嘘ばかりついて、家を友人達にまで調べられ訪ねられた」「レイプされた事を家族に言うとおどされて誰にも相談できずに困った」と、事件後も被害を受けた人が複数いた。

「加害者にそういうことをしてはいけないと諭したかった。加害者の更正が気になる」といった被害者もいた。

6) 現在（調査時）の状況について

被害にあってから、時が経過するにつれて、いろいろな影響が減少しはしても、まだまだ残ることが多い。眠れない、夢を見る、事件に関したことを思い出して嫌な気持ちになる、体調を崩している、警戒心が強い、電車に乗るのがつらい、男性不信になるなどという訴えが見られた。そのため、電車に乗る時間が制限されたり、服装を変えるなど、生活スタイルを変化せざるを得なくなった人もいる。

- ◇1か月に1回か2回、布団に入ってから、ふいと思出す。まず、顔が出てくる。ムカムカ気持ちが悪くなる。何をしても（本を読んでいても、テレビを見ていても）、気分を変えようとしても変わらない。長いときは、明け方まで（3時間くらい）1晩中続く。なるべく考えないようにして、うまくすると眠れる。
- ◇精神的に不安定－「怖かった。また嫌なことをされそうな夢をみた。町を歩いていてもすれちがった人が犯人にそっくり」と言ったりする。勉強が手につかず、成績が下がった。夜眠りが浅くなっているようだ。乗り越えてくれることを期待している（母親）
- ◇犯人の顔を覚えているらしく、顔が浮かんでくるなどと言う（母親）
- ◇最近はやっと頭について離れないという状態ではなくなったけれども、電車に乗っている間中、いやな気持ちが続く。
- ◇事件にあって変わったと思うところは、警戒心が強くなり、用心深くビクビクするようになった。家の周りを見回してでないと、ドアを開けない。また、男性不信になった。
- ◇体調がよくない。外出できない。家の近くなら買い物できる。夜一人で歩くのが怖い。電車は痴漢に合うことがあって、もともと嫌だったのが強まった。昼間、混んでいない電車なら大丈夫。
- ◇一番気にしているのは身体のこと。妊娠予防薬を飲んでいるけど、まだ生理が来ないので不安。1週間に1回くらい思出す。今も小さい電気をつけて寝ている。外に出るとき派手な恰好をしない。身体の恰好を見せない。おばちゃんスタイル、刺激を与えない

ように

- ◇睡眠のリズムが眠れなかったり眠りすぎたりして、狂っていた。最近以前のように戻ってきた。睡眠はたっぷりとらないとだめな体質だから、影響は大きい。
- ◇事件の時は求職中だった。体調を崩してできない。
- ◇仕事は水商売。今休んでいる。そろそろちゃんと言行なきゃと思っている。時々思い出して手がふるえたりする。ティッシュ配られてもよけてしまう。
- ◇夜中はまだテレビつけっぱなしで寝ている。寝付きが浅いとか寝付けぬ等の困難は今はない。学校にも通えている。
- ◇男性不信。あまり親しくない人は、男の人って、あまり信用できないな、と思う。今までの経験（痴漢やセクハラなど）も重なっている。もともとあったものが強くなった
- ◇事件当時に比べれば、大分よくなっている。男の人に近寄れない、夢を見る、夜怖くなる、男の人は信用できない、などは現在もあるが、当時より少しいい。事件後、人から見たら何でもないかもしれないが、自分としては生活が満足にいかない。男の人をまともな目で見ない
- ◇男の人という言葉だけでも拒否反応が出る。普段の様子は変わらない。事件後少しクラス男子が嫌だと言って休んだが、今は普通に登校している（母親）

被害を受けたことで、性的なことに敏感になったり、自分に原因があるのかと考えてしまった人もいる。

- ◇ここ最近、痴漢や上司のセクハラ、複数の男友達から性的な関係を求められたりということが、何度かあったので、自分に誘因があるのかと思ってしまう。もしそうだったら、自分の方を何とかしたい。
- ◇事件の1週間後、電話ボックスにいたら、車が乗り付けて来て、露出狂みたいな人が乗っていた。110番をしようかと思ったが、また、あの調書の聞き取りがあるかと思うとやめた。こういうことが続いたので、自分のせいかと気になった

被害者の周囲の人の不安も続いている。

- ◇とても心配。痴漢が多いので、又いつ被害にあわないとも限らない。学校に行きたくないなどと言われたらと思う（母親）。
- ◇いろいろなことを本人が訴えてくるので もっぱら聞いてあげる。それしかできない。友人に話せることではないらしい（母親）

今後の加害者の行動について不安を述べた人もいる。

- ◇逮捕まで三週間くらいかかった。逮捕までは顔合わさなかな、と不安だった。事件が通勤途上だったので道順を変えた。現在は勾留中で、警察官の話では、最低で二年は入っ

ているだろうと言うが、出た後が怖い。

◇顔を覚えている心配はないと思うが、会わない保障はない。お礼参りが心配。警察官は絶対それはないと言うが、ずっと自分につききりでいてくれるわけじゃない。事件がこれからどのように動いていくか、分からないから検事に相談して、事件のこれからのことは決めようと思う。

大丈夫という人もいる。

◇同じ被害にあった他の人よりは元気だと思う。忘れたいというより、もし役に立てるなら、協力したい気持

◇そろそろ求職活動を再開しようかと思っている

◇娘は傷ついてはいない。強い娘なので。検事さんにも男の人が怖くなったかとか電車に乗ることはどうかと聞かれたが、平気と答えていた（母親）

しかし「今はもうほとんど思い出すこともない」と答えられたが、それは「もう何も思い出したくない」ということであった。

7) その他

カウンセリングなどの専門的な精神的支援の必要性を言った被害者もいる。

◇当人にしか分からない感情は専門家に話したら分かってもらえるのではないか。そうすればすこし考えが変われるかも。これから先のことは不安である。疲れている。

◇カウンセリングなどがあってもいい。もっとひどく傷ついてしまう人もいると思う。

◇私は必要なかったけど、ショックを受けている人は（カウンセラーなどは）必要だと思う。